



京都府福知山市

～栽培から食べることで責任をもって、誰もが笑顔になれる楽しい農業をやろう。～

いのうえかぶしきがいしゃ

井上株式会社 チームアグリライフクリエイト

WEB サイト：<https://fields-the-base.jp/>

参入法人の概要

法人形態：一般法人

代表者名：代表取締役 井上 大輔

所在地：京都府福知山市篠尾新町3丁目3番地

設立年次：昭和27年（1952年）4月（法人化）

資本金：4,000万円

親会社：株式会社WELLZ UNITED
（ホールディングス会社）

営農形態：施設栽培

主要作物：いちご

経営面積：21a（うち借入21a）

主な販売先：いちご摘み取り園、ジャム等の加工品
として来場者に直接販売

売上額：1,800万円（農業外売上350,000万円）

農業従事者数：8名（正社員5名パート3名）

●農業に参入した目的を教えてください

井上株式会社は1947年に京都府福知山市で電気工事材料卸売業として創業し、現在は電気設備・IT関連事業を展開しています。

地域密着企業として福知山市の課題解決に貢献できる新規事業を社内で議論したところ、社員から身近な人たちが営んでいる農業の未来について不安を口にする声が少なくなかったことから、農業への参入を決意し、2019年、社内にアグリライフクリエイト課「フィールズ・ザ・ベース」を開設し、アグリチームを結成しました。

「栽培から食べることで責任をもって、誰もが笑顔になれる楽しい農業をやろう。」そんな思いで農業に取り組んでいます。

●当該土地を選んだ理由を教えてください

農業参入にあたり農地を探すために社員が地域に足を運んで農家に声掛けを行い、情報収集をしました。

そうした中、地域の方から廃校になった旧中六人部^{なかむとべ}小学校の活用について福知山市から地元に打診があったことを聞いたことから、地域の協力を得て、市が実施した旧中六人部小学校跡地活用事業プロポーザルに応募した結果、活用事業者として借り受けることが出来ました。

借り受けた廃校舎を地域活性化の拠点としてリノベーションを行い、体験型農業施設THE 610 BASE（ムトベース）として2020年より運営しています。

学校の跡地でもあり、日照・土地の形状・水・電気などのインフラ施設がいちごの栽培条件に適しており、グラウンド跡にビニールハウス7棟（21a）を建設し、いちご摘み取り園として運営しているほか、校舎内にクラフトビール醸造所も設けています。



グラウンドを活用した栽培施設

●当該作物を選んだ理由を教えてください

地域を活性化し関係人口を増やすため、集客力のあるいちごを栽培して摘み取り園を開設しました。また、クラフトビール醸造所で使用する大麦やホップも地元農家と協力して栽培しています。



イチゴ摘み取り園

●参入にあたって栽培技術の確保にどのように対応されましたか

農業関係機関とのつながりがなく、以前から本業を通じて付き合いのあった市内のいちご生産者から栽培技術の面で助言・協力をいただき、インターネット上の情報等も参考に栽培技術を身に付けてきました。

参入当初はハウスを1棟借りて試験栽培を行い、栽培面積が小さいことから順調に栽培できていました。2年目に現在の大型ハウスで栽培したところ、社員が農作業に不慣れであったこともあり栽培管理に苦労しましたが、3年目以降は栽培技術も向上し、順調に栽培できるようになりました。

現在、いちご摘み取り園のハウスでは温度・湿度・CO₂等の状況を IOT 技術で常時監視し安定した生産を行っています。

●販売先、販路についてはどのように確保されましたか

いちご摘み取り園での消費が主で約7割です。他に持ち帰り用・イベント・施設内のカフェで飲食に提供するほか、ジャム等の加工品も製造・販売しています。

EC サイトでの販売も含め、直接販売が基本で市場への出荷はしていません。

●農業参入してみて気づいた（参入するまで気づかなかった）のはどのようなことですか

いちご摘み取り園には年間 5,000～6,000 人ご来園いただいています。農業体験にお金を費やす文化が浸透していることに驚いています。

また、農業とは無縁の業種であったため、農林水産省の施策や補助事業、法制度等についての知識がなく、関係機関との調整に苦労しました。

●地域の方や農業委員会、JA、自治体との関係について気を付けていることがあれば教えてください

社員が地域に足を運び生産者に声掛けを行い、少しずつ地域との信頼関係を構築しました。その後、地元の生産者の紹介で「中六人部地区農村 RMO 事業推進連絡会」の構成員でもある「中六人部地域づくり協議会」の協力を得られたことで、地域貢献として THE 610 BASE での地元の野菜を販売するイベントを開催した他、地元の小中学校の職業体験の受入れや総合学習の講師もしており、いちごの育苗を職業体験として子供たちに実践を交えた体験学習を行っています。

●今後の経営方針について教えてください

- ①GLOBALG.A.P.を取得することを考えている。
- ②THE 610 BASE に住民が集い、地域の拠点となるような場所にしていきたい。
- ③規模の拡大ではなく、いちごの付加価値を高めることで、ビジネスとして成功させたい。
- ④農福連携の取組として、福祉学校や福祉事業所と連携して実習生の受け入れや障害者雇用を進めていきたい。

●今後、農業参入しようと考えている企業へのメッセージをお願いします

地域に受け入れてもらえることにより、地域と協力した現在の仕組みを確立しました。また、地域貢献だけを目的に農業に参入するのではなく、良いものが作りたいとの情熱をもって農業に参入してほしいです。農業分野では不規則な時間帯での勤務が多いので、休暇取得等の福利厚生を充実させるなど、社員が働きやすい環境を整えることが重要です。



地域活性化拠点 THE 610 BASE